

校名：愛媛大学附属高等学校

所在地：〒790-8566 松山市樽味3丁目2-40

電話番号：089-946-9911

記載日：2016年 5月 2日

記載者：彦田 順也

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

愛媛大学附属高等学校は、「地域に役立つ人材、地域の発展を牽引する人材の養成」を目指す愛媛大学の理念にもとづき、生徒に「学びに対する高いモチベーション」「地域を担う意欲」とそれを支える「確かな学力」を育て、「生きる力」を愛媛大学と連携して、培うことを目的としている。

1学年120名（40名3クラス）ということで、高等学校としては小規模であること、1年次に全員が農業実習を行っていること、高大連携教育プログラムが充実していること、校庭に緑が多いこと等、非常に恵まれた環境によって、穏やかで温かみのある校風が創り上げられている。その中で個々の生徒は、しっかりとした目的意識を持ち、勉学や課外活動に熱心に、積極的に、楽しく



取り組んでいる。卒業後の進路についても、大学、社会、職業について理解をし、自らの興味・関心や特性を十分に把握した上で、その選択を行うための高大連携を始めとする教育プログラムにより、ミスマッチのない選択・実現を行うことができている。また、SGH（スーパーグローバルハイスクール）に採択されたことを機に、グローバルな視点に立ち、地域の発展に資する人材の育成を目指しており、日常的に校内に国際色豊かな空気が流れるようになってきている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 卒業生のうち、その動向を学校が把握しているのは、8～9割程度である。特に顕著な活躍がある者については、大学にも報告している。
- ② オリンピック選手、企業経営者、地方議会議員、専門職職員など、各界で顕著な活躍がある者については、学校だけでなく大学もその状況を把握している。また、毎年開催している本校の創立記念行事において、これらの卒業生を講師とする講演会を開催し、活躍の状況を在校生や保護者に披露し、広く周知している。
- ③ 卒業生の動向については、個々人からの情報に頼るところが大きいのが現状である。現在、大学や同窓会等の協力を仰ぎ、組織的・体系的な追跡調査の実施に向け準備を行っているところである。



貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 本校では、大学採用教員と交流人事教員がほぼ同数となっており、例年公立学校へ異動となる教員は3～4名程度と少数である。そのため特に追跡調査を実施している訳ではないが、各教科の研究会や部活動等の交流の機会を通じて、概ね動向は把握できている。

- ② 本校勤務経験者の全てについて、現在の勤務校、校務分掌等を学校として把握している。学校長や教育委員会管理主事等への昇任があれば、大学にも報告するが、これまでにそのような例はない。
- ③ 本校での経験を生かして、教科研究会やその他の研究会（人権・同和教育等）において、中心的な役割を担い、活躍している教員もいる。本格的に交流人事を開始して10年程度であり、現在、公立学校教員にとって本校での勤務が、さらに充実した教科教育の研究・実践等の研修となることを目指して、検討・工夫を重ねているところである。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

本校は、国立大学附属学校の使命を果たすため、主幹教諭を長とする研究部を中心とした教育研究体制を組織し、教育委員会を通して県下の高校に周知し、愛媛大学の協力を得て研究会を定期的に行っているなど、恒常的に教育研究活動を行っている。

本校設立以来7年間にわたり高大連携による課題研究を実施しており、生徒の主体的な学びや進路選択に関する分析・評価を行うことにより、継続的に改善を図っている。その実績については、県下の中学校や高校からも注目され、高い関心を持たれている。

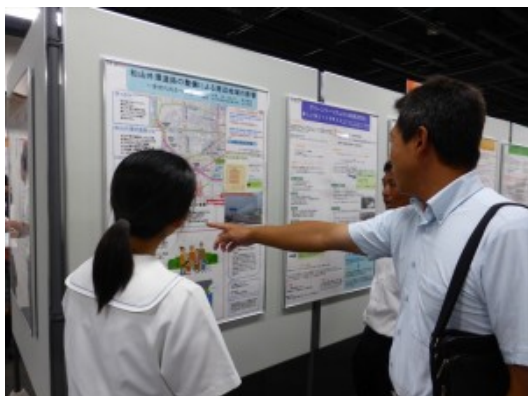
なお、本校をモデルとする愛媛大学の高大接続のプロジェクトは、平成26年度の大学教育再生加速プログラムに採択されている。



1. 高大連携教育プログラム

高校生が進路を決めるとき、大学で何を行っているか、実際にはよく理解していない場合が多い。したがって、大学入学後に進路について悩み、退学する例も少なくない。退学まで至らなくとも、不本意に感じながら卒業していく例も多い。これらを回避するためには、高校時代に大学で何を行っているか、何を学んでいるのかを少しでも理解させておくことが必要であると思われる。また、それが学びに対するモチベーションの向上と確かな学力を身につけさせることに役立つものと思われる。一方、高校生がどのようなことに悩み、問題意識を持っているかを大学側が把握しておくことは大学教育の改善にもつながる。

また、大学生・大学院生と高校生の交流は、大学生・大学院生にとっては、責任感を身に付ける、高校生にとっては、わずかに年上の先輩からの確かなアドバイスをもらえる、絶好の機会であると信じる。このように高大連携は社会の要請だけではなく、高校、大学の教育改善に必要であり、さらには高校生、大学生の心の発達にも重要な役割を果たすものと思われる。



本校が人材育成のために最も重要であると考えていることは、学びに対するモチベーションの高さを身に付けさせることである。そのために、学ぶことの楽しさをどのように伝えることができるのかを大学と高校が協力しながら研究・実践するものである。確かな学力を担保しながら、自己発見をするためのカリキュラム作成を大学と高校が協力して取り組むための方策を検討することで、新たな高大連携の在り方を提起していきたいと考えている。

全学附属化に伴い、愛媛大学の全ての学部・機構との連

携が可能となり、全学組織としての附属高等学校連携委員会が設置された。本委員会において設計・構築された高大連携教育プログラムは、全人的教育の成果として、大学の要求する「学びに対する高いモチベーション」「確かな学力」「地域を担う意欲」を持ち合わせた生徒を育成することを目指すものである。

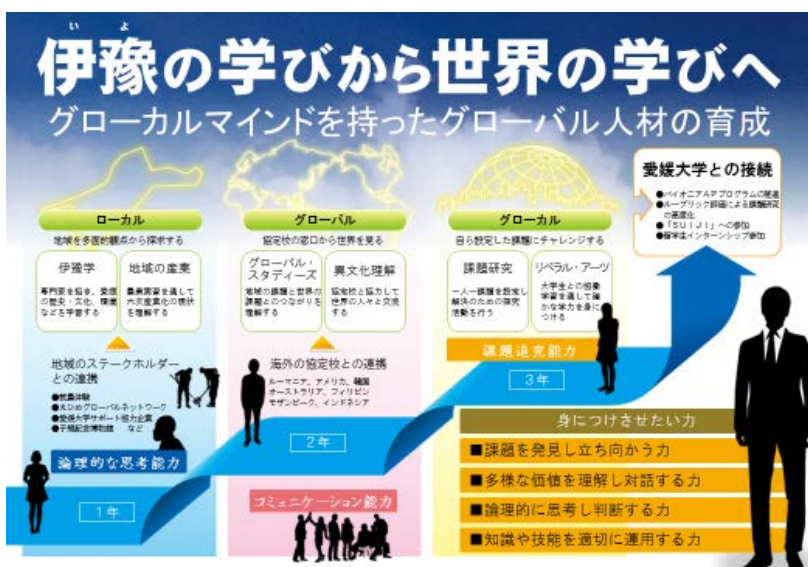
2. SGH（スーパーグローバルハイスクール）

本校の目指すグローバル人材とは、地域の課題と世界の課題を統合的に捉えるグローバルな視点を持ち、社会課題に対して失敗を恐れずに挑戦し続ける人材を指す。そうした人材は、論理的な思考力、コミュニケーション能力、課題追究能力を兼ね備えている必要がある。そこで、グローバル化を推進する愛媛大学や地域にあってグローバルな展開をしている企業などと連携し、新たな教育プログラムの開発・実践を行っていくことを目的とする。

生徒に身に付けさせたい力は次の四つである。

- 課題を発見し立ち向かう力
- 多様な価値を理解し対話する力
- 論理的に思考し判断する力
- 知識や技能を適切に運用する力

本校を含む県下3校のSGH及び2校のSSHからなる「愛媛スーパーハイスクールコンソーシアム」により、ネットワークを構築するとともに、本コンソーシアムにおいて先導的役割を担い、運営に携わっている。また、県教育委員会が主催する本コンソーシアム発表会において成果発表を行い、県下公立・私立学校に対する啓発を行っている。



3. 大学教育再生加速プログラム（高大接続）

大学と高校との共同による高大接続教育モデルプログラムの開発と教学 | R（Institutional Research）による効果測定を行い、新たな高大接続のモデル構築を行っている。

具体的には、愛媛大学と本校が取り組んできた大学・高校教育の円滑な接続方法の研究・開発を進展させ、高校段階で「学びへの意欲」を高めることによって大学における「深い学び」を確保し、大学教育の到達点の高度化を図る。

- ① パイオニア・アドバンスト・プレイズメント（P-AP）プログラムの創設と二重（デュアル）単位の付与
- ② ループリック評価による「課題研究」の高度化と入試への活用
- ③ 高大で一貫して汎用的能力を育てるICT教材の開発



これら三つの取組を通して、高大接続事業による問題発見・解決力育成の成果を深化発展させ、「幅広い教養と深い理解」「学び続ける意欲」「知の運用能力」を育成する。さらに、教学IRによって大学入学後も接続教育の効果測定を行い、高校及び大学教育の質的向上を図るとともに、本取組で得た知見や評価方法を、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する新入試制度の導入においても活用することとしている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

1. スーパーハイスクールコンソーシアム

愛媛大学、愛媛県教育委員会、スーパーハイスクール（県内 5 校）が連携し形成したコンソーシアムにおいて、重要な役割を担っている。

2. 高大連携教育プログラム、高大接続のモデル校

平成 20 年度、愛媛大学附属への改組に伴い、愛媛大学の全面的な協力を得て、全国に例を見ない多彩でスケールも大きく、しかも内容の充実した高大連携教育プログラムの開発に着手し、実践を行っているところである。本校のプログラムを参考にした高大連携の取組が、近隣他校（特に SGH, SSH）でも実践されつつあり、高大接続に対する意識改革にも大きな影響を与えている。

3. 教員養成の実践校

平成 26 年度、愛媛大学が附属高校をモデルとして指定を受けた大学教育再生加速プログラムにおける「ICT教材の開発」では、様々な場面で、有効に ICT を活用できる教員の養成を目指した教育実習に関する研究・実践にも取り組んでいる。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

1. 地域とともに輝く大学との高大接続モデル（地域のモデル校）

愛媛大学は、「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」を創造することを基本理念としている。本校は、この理念に沿い地域を担う意欲を培うとともに、グローバルマインドを持ったグローバル人材を育成することを目的とし、地方大学における高大接続のモデル校として、その在り方を地域に発信しているところである。本校が開催する各種の研究発表会（課題研究、SGH、教育研究等）には、県内からの参加者も多数あり、地域のモデル校としての役割を十分に果たしている。

2. 学校制度改革のパイオニア（国の拠点校）

愛媛大学は、幼稚園から大学・大学院までを有しており、学校制度改革に関する研究・実践を行うための環境が整っている。このような環境を持ち、しかも五校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の附属学校園が、普段から連携教育・連携研究を継続的に実施している。

我が国においては、これまで小中一貫教育、中高一貫教育、高大連携・高大接続等の研究・実践が行われているところであるが、幼稚園から大学・大学院までを見通しての一貫した教育制度については、十分な検討がなされているとは言い難い。愛媛大学が、国立大学法人としては他にあまり類を見ない、恵まれた附属学校園の環境を生かし、これらをモデルとして、我が国将来の学校制度の在り方を実験的に検証し、全国に発信することが期待されるところである。